

新しい携帯ソフトウェア事業への チャレンジ

中澤 修

近年、携帯電話に関わる市場環境の変化は激しく、予想もできなかった新しいプレイヤーが登場することや、成功したビジネスモデルが一瞬で古くなること、さらには昨日までの勝ち組みが今日・明日には負け組みに変わるなどが頻繁に繰り返されている。

最近も、Googleによる携帯事業へのチャレンジとなるAndroid (Linux/Javaベースの携帯OS・ミドルウェア)¹⁾の登場、発売から3日間に全世界で100万台を販売したAppleのiPhone 3G²⁾ ショック、さらにはNOKIAによるSymbian OS (ミドルレンジからハイエンドの携帯の約40%に搭載される携帯OS) の無償化・コンソーシアム構築³⁾の発表など、携帯電話のグローバルな市場環境を変えるさまざまなイベントが世界各地で起こり続けている。

2005年夏、OKI ACCESS テクノロジーズ (略称OAT: このときにはまだ会社名までは決まっていない)⁴⁾という会社の企画を行っていたときには、これ程までに大きな市場環境の変化は発生していなかった。

本稿では、OKIとACCESS^{*1)}のジョイントベンチャーであるOATの誕生から現在までの事業展開の状況と、中長期的な成長戦略、そしてビジョンについて紹介する。

OAT誕生に向けて

OKIとACCESSとの関係は古く、ACCESSがモード用ブラウザを開発し有名になるよりも前 (今から10数年前) から協業関係にあり、固定電話にブラウザを搭載するブラウザフォンを開発するプロジェクトを共同で進めていた時期がある。当時としては、先進的かつ画期的な企画であり、市場に出すことができれば、非常にインパクトがあったと考えられるが、残念ながら陽の目を見ることはなかった。

その後、ACCESSとは、共同の事業検討や情報交換というレベルの関係は継続されてきたが、大きな進展はなかった。両社の関係強化のきっかけは、携帯電話のマルチメディア化/IP (Internet Protocol) 化の流れにある。

2004年夏、固定電話のIP化は急速に進行し、携帯電話の世界でも、モバイル通信技術に関する業界団体である

OMA (Open Mobile Alliance) が中心となり、3GPP (3rd Generation Partnership Project) 仕様とIETF (Internet Engineering Task Force) 仕様を統合するIMS (IP Multimedia Subsystem)⁵⁾と呼ばれる“携帯電話とインターネットの融合”仕様の策定が進行していた。その流れの中で、ACCESSのNetFront^{*1)} Mobile Client Suites (以降NMCS) にVoIPを統合し、将来的な携帯電話のIP化を目指した共同の試作・評価を行うことになった。試作は当時のIPソリューションカンパニーのVoIP (Voice over IP) 部隊とACCESSのR&D部隊が中心となり、演算処理能力の低い携帯電話向けプロセッサやOS上でのVoIP実装方式や性能問題を段階的にクリアしつつ、NMCSとOKIのVoIPの統合を成功させることができた。

この成功が大きな契機となり、ACCESS製品とOKIの得意とするIP通信やマルチメディア技術を統合し、来たるIMS/FMC (Fixed Mobile Convergence) の時代の先駆者となるために、OKIとACCESSとのアライアンスを強化することになった。これが、2005年夏のことであり、事業内容や事業モデルの検討と共に、従来の延長線上でのアライアンス強化からジョイントベンチャー設立まで、さまざまなアライアンス形態の検討が短期間・集中型で進められた。これらの検討を、当時のネットワークアプリケーション本部が中心となって進め、検討開始から約3ヶ月という短い期間で、OATを立ち上げることとなった。OATの事業コンセプトの“面白さ・可能性”に共感し、迅速な判断を実施した両社経営陣に感謝している。

OATの設立と事業スキーム

2005年11月1日、OATはIMS/FMC市場をターゲットとした新しい携帯事業への第一歩を踏み出すことができた。両親会社からの出資により成り立つジョイントベンチャーとは言え、ひとつの株式会社であり、すべて手作りで会社を立ち上げるという大変貴重な経験をさせていただくこととなった。

OATの事業モデルは、ACCESSの事業モデルを踏襲した、ソフトウェアのライセンス供給による対価 (ロイ

*1) ACCESS、NetFrontは日本国およびその他の国における株式会社ACCESSの商標または登録商標です。

ヤリティ)を主要な収入源とするものである。目標はACCESSと同じく売上の50%以上をライセンス/ロイヤリティ収入とする高収益ベンチャーの実現である。図1にOATの事業スキームを示す。

OATは、OKIの得意とする通信/音声/映像などの技術/商品をベースに、携帯電話や情報家電向けのマルチメディア通信商品を構築し、その商品をACCESSの主力商品であるNetFront/ALP (ACCESS Linux Platform^{*2)})などに統合することにより、ACCESSを通して国内外の通信キャリアや家電/機器メーカーなどに販売することで収益を得る。また、OKIの各種通信サーバ系事業と連携した、End-to-Endソリューションの構築・販売も本アライアンスの対象とした。

この事業スキームのもとで、我々は「ユビキタス社会を構成するあらゆる機器に音声・映像メディアを融合するIMSアプリケーションプラットフォームをライセンス提供する世界シェアNo.1ベンダとなる」というカンパニビジョンを描き、OATの航海を始めることとなった。

第一歩から現在までの事業展開の状況

OATの事業は、携帯通信キャリアのIMSサービスを実現するための、携帯電話上に搭載されるIMSクライアントプラットフォームの開発・販売から始まった。最初のお客様は国内携帯キャリアである。商用IMSサービスのクライアントとして、OATが商品化中のIMSクライアントプラットフォームが採用され、約1年後の2006年12月にサービスを開始した。これがOATの最初の携帯事業へのチャレンジであり、現在も継続して利用されている。

設立から約3年、最初の商品を開発してから約2年が経過した現在、携帯電話や情報家電をターゲットとして、さまざまな商品の開発を進め⁶⁾、主として以下に示すような事業を展開している。

《IMSプラットフォーム事業》

- 携帯/情報家電向けIMSクライアント商品、およびIMSサーバシミュレータ商品の開発 (以下IMS基盤と略す)
- 国内携帯/関連携帯メーカー向け商用IMS基盤の提供
- 国内外キャリア/メーカーへのIMSサービス企画/トライアル用IMS基盤の提供
- NGN (Next Generation Network) を対象としたホームゲートウェイ/ゲーム機器/車載端末などの情報家電向けIMS基盤の提供

*2) ACCESS Linux Platformは日本国およびその他の国における株式会社ACCESSの商標または登録商標です。

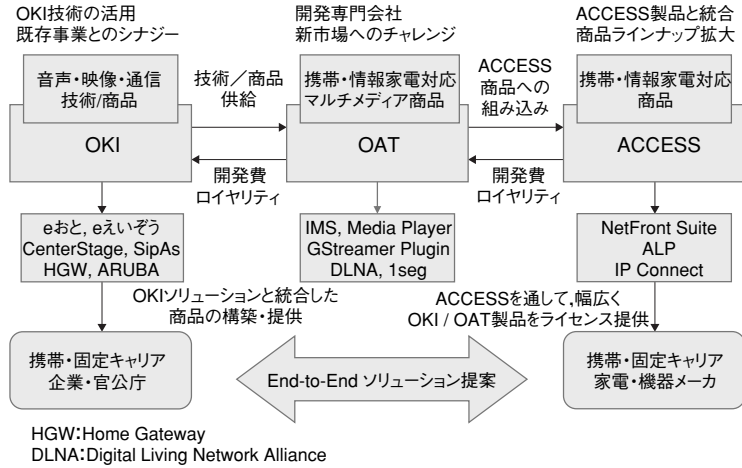


図1 OATの事業スキーム

- モバイル環境での業務効率化を目的とした企業向けモバイルプラットフォームの提供 (企業向けIMS基盤提供)

《映像プラットフォーム事業》

- 携帯/情報家電向けオーディオ/ビデオプレイヤー (Media Player) 商品の開発
- 携帯/機器メーカーへのMedia Player/DRM (Digital Rights Management) /コーデックの提供
- 機器メーカーへの1seg放送対応DTV Playerの提供
- 携帯/機器メーカーへのDLNA仕様準拠Playerの提供

《ALP関連事業》

- LiMo⁷⁾ 標準マルチメディアフレームワーク商品の開発
- ALP標準IMS基盤の開発
- キャリア/携帯メーカーごとのALP展開プロジェクトへの参画による商品共同開発

しかし、この3年間すべてが順調に進んだわけではなく、重要な商品開発に失敗し、お客様のサービス提供が行えず、多大なご迷惑をお掛けするような事故を起こしたこともある。その影響により、OATとしても事業計画の見直しが必要となる事態も発生したが、それも大きなチャレンジによる貴重な経験・肥やしとして、現在の商品開発や事業戦略の立案・展開に生かさせていただいている。リスクを恐れては、変化の激しい現在の事業環境の中で大きなチャンスを掴むことはできないと考え、日夜果敢にチャレンジし続けている。

中長期的な成長戦略

OATはIMS/FMCの世界での成功を掴み取るために成

長戦略を描いている。この新しいIMS/FMCの世界は、突然登場するものではなく、現在のサービスの延長線上に存在するものであり、現行の3G/無線LANによるモバイルネットワーク環境からのシームレスかつ段階的なマイグレーションにより実現されることになる。そこで、確立された事業モデルと市場での実績を有するACCESSの成長戦略との密連携のもと、現在の市場環境の一步先に新しい事業チャンスを獲得できるような考え方で、成長戦略を構築した。

図2に、ACCESSの成長戦略の5つの方向性と連動した、OATの成長戦略を示す。また、以下は5つのそれぞれの方向性に関する、白丸(○)がACCESS、四角(□)がOATの戦略である。

① NetFront Browserプラットフォームの進化

- 携帯/情報家電向けブラウザの最先端の追求
- フルインターネット対応などへのブラウザの進化
- Widgetsによる新しいサービス提供モデルの構築
- WidgetsとIMS/MediaPlayerの統合商品の開拓
- Browser plug-in型のリアルタイムコミュニケーション/マルチメディア環境の実現

② アプリケーションラインナップの拡充

- ブロードバンド/放送メディアへの対応
- PC上で流通するアプリケーションの携帯上での実現
- 複数のアプリケーション間の柔軟な連携環境の提供
- 無線通信環境(3G/Super 3G/WiMAXなど)やモバイル標準化に対応したIMSアプリケーションの拡充
- 国内外デジタル/IP放送対応MediaPlayerの実現

③ ALPトータルソリューションの構築

- Linuxベースのターンキーソリューションの提供
- キャリアと密に連携したALPプロジェクトの実行
- ALPコンポーネントのLiMo準拠とLiMoへの貢献
- ALP標準マルチメディアフレームワーク、IMSフレームワークの実現
- 強いOKI技術(決済/認証/無線/...)のALPへの統合

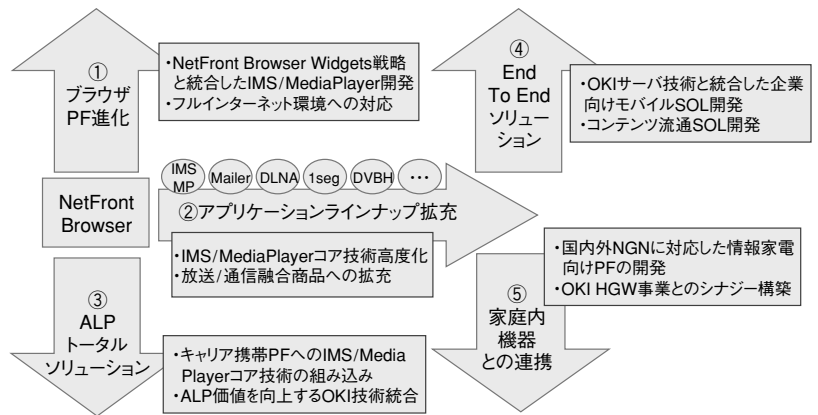


図2 OATの成長戦略

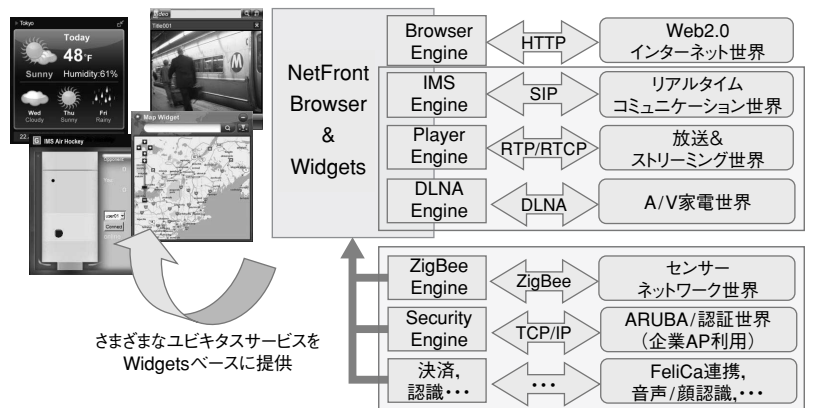


図3 NetFront Browser戦略との統合例

④ End-to-Endソリューションの提供

- クライアント&サーバの統合ソリューションの提供
- 音楽/書籍などのコンテンツ配信サービスの実現
- 企業向けモバイル環境へのIMS展開
- さまざまなコンテンツ配信環境に対応する柔軟性・拡張性のあるマルチメディアプレイヤ環境の実現

⑤ 家庭内機器(情報家電)の統合

- DLNAを中心とするホームゲートウェイ環境の実現
- モバイル機器と家庭内機器とのシームレスな連携
- NGNに対応するホームゲートウェイソフトウェアプラットフォームの共同開発
- 携帯と情報家電を連携するIMSベースFMC環境の実現

図3は、OAT戦略のひとつの例であり、①の“NetFront Browserプラットフォームの進化”に対応させた、OAT技術・商品の統合イメージを示したものである。NetFrontは“ネットワークをアクセスする窓”というコンセプト

を持つ商品であり、この窓を通したIMSベースのリアルタイムコミュニケーションやプッシュ型コンテンツ配信環境、マルチメディアストリーミング/放送視聴環境、さらにはDLNAによる情報家電のアクセス環境などを実現する商品のコンセプトを表している。現在、これらのネットワークサービスは、Widgetsをベースに実現することが業界のトレンドとなっており、我々も携帯から情報家電まで共通的なユーザーインターフェースを持つWidgetsアプリケーションとして提供中である。

おわりに

本稿では、OATの設立から現在までの事業の展開状況、今後の成長戦略などに関して紹介した。

OATはひとつの独立したベンチャー企業として成長することが勿論重要であるが、図4に示すように、両親会社がOATという会社を通して連携するシナジー効果により事

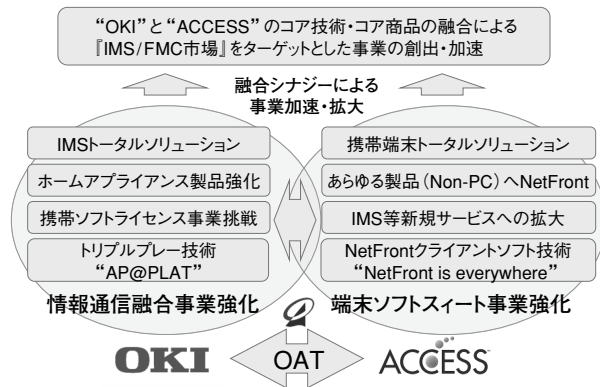


図4 OATの目標

業を拡大させるという役割も持っている。今後は、OKIのNGN事業や企業ネットワーク事業との共同開発、またACCESSの携帯・情報家電事業に対するOKI技術・商品や人材を含めた、より一層の連携強化を進めたいと考えている。

OAT自身としては、OKIとACCESS両社の事業のコアとなる会社として成長することは当然のこととして、今後の携帯/情報家電業界の中で、必要不可欠なソフトウェアプラットフォームを提供できるキープレイヤーとしてのポジションを築き上げ、ベンチャー企業として株式上場できるような魅力ある会社へと成長したいと考えている。◆◆

参考文献

- 1) URL <http://code.google.com/android/>
- 2) URL <http://www.apple.com/jp/iphone/>
- 3) URL <http://www.symbianfoundation.org/>
- 4) URL <http://www.oki-access.com/>
- 5) Gonzalo Camarillo, Miguel A. Garcia-Martin: The 3G IP Multimedia Subsystem (IMS), 2005, John Wiley & Sons
- 6) 中澤修, 福田春生, 松山憲治: IMSサービス実現のためのアプリケーションプラットフォーム, 沖テクニカルレビュー210号, Vol.74 No.2, pp.32-35, 2007年4月
- 7) URL <http://www.limofoundation.org/>

筆者紹介

中澤修: Osamu Nakazawa. 株式会社OKI ACCESS テクノロジーズ 代表取締役社長

TIPS

【基本用語解説】

ACCESS

ユビキタス社会への貢献を目指し、携帯電話・情報家電などのNon-PC分野をターゲットとした、組込みソフトNetFrontやALPなどを提供するソフトウェアベンダ。
URL <http://www.access-company.com/>。

NetFront Mobile Client Suites (NMCS)

携帯電話・情報家電用ソフトウェアプラットフォームの総称。NetFront Browser/Mailerが有名であり、08年5月時点でグローバル市場に対して5億9200万台/1429機種への搭載実績を持つ。OATのIMSなどの製品もNMCSを構成するコンポーネントのひとつとなる。

ACCESS Linux Platform (ALP)

モバイル機器および統合型デバイス市場向けに設計され

た、柔軟かつ商用向けのLinuxベース次世代ソフトウェアプラットフォーム。

Widgets

特定アプリケーションの利用に特化した“簡単・便利・きれいな”Browser。たとえば、GPSに連動した地図表示、天気予報、株価通知、YouTube専用MediaPlayer、プッシュ型コンテンツ配信ビューアなどが代表例である。

LiMo

正式名はLiMo Foundation。独立した非営利団体であり、携帯電話業界へのLinux適用拡大を目指すために、キャリア/メーカーが中心となり2007年に設立された。